

sgSquare



CONTENTS

北陸ソフトাস 北陸全社員集会…… 2

R&D 戦略部 活動報告…… 4

経営勉強会「IOWN 構想」…… 8

キャリアアップストーリー_ソフトাস・山越弘和…… 18

在宅医療介護連携システム[aHMS (アームス)]開発ストーリー…… 20



X のフォローと YouTube のチャンネル登録を!

https://x.com/softas_PR

<https://www.youtube.com/channel/UCO9tgjlzurlTG6whpBmjl7g>

北陸全社員集会

北陸ソフタス

文：北陸ソフタス 齊藤 貴史

8月3日に北陸ソフタスでは富山国際会議場で全社員集会を実施しました。

グループ会社からは以下の方々を来賓としてお招きしました。

- ソフタス R&D戦略部長 山根 智之様
- ソフタス 執行役員 北村 淳様

今回の全社員集会は総勢71名と今までにない規模での開催となりました。

実行委員のメンバーとしては、社員の全員が受け身ではなく意欲的に参加できるような全社員集会にしたいという思いを込めて企画いたしました。



齊藤 貴史



小林顧問

■ 新入社員紹介

2023年12月以降に入社した社員12名と、新たに顧問として就任された小林さんに自己紹介をして頂きました。1年間で多くの社員が北陸ソフタスの仲間入りをしたことが伝わったかと思います。

■ ご来賓の方より

今回お越しいただいた北村様・山根様より、グループ会社内で盛んになっているe-sportsの動向について、SACSがどんな活動をしているのか？ といった内容についてお話を頂きました。普段、耳にはするものの詳しくは知らなかった…という社員もいたと思います。今回話して頂いたことで興味を持ったり、参加してみたりするきっかけになってより活発な動きが出てくれば嬉しいですね！

■ 部門紹介

社員から他の部のことをもっと知りたいという意見もあったため、現在の各部の人数・売上・今後の方針などの状況について改めて説明頂きました。自分の所属している部以外のことも知りたいという声があったのは良いことなので、部間の情報共有をよりしやすく、自社のことをより知ってもらい働きかけを今後も実施していきたいです。

■ SACS報告

北陸ソフタスで現在SACSを受講中の3名（高城・島田・早田）から、SACSの紹介、やってよかったこと、なぜやろうと思ったかなど、一人一人の意見も交えながら発表してもらいました。大変なこともあるけれど、やりがいを感じていることが伝わってきました！

■ メインセッション【社内活動推進に向けて】

今回の全社員集会のメインセッションとなる【社内活動推進に向けて】というテーマ。

北陸ソフタスが会社としてより良くなっていくため、あるいは社員自身がより良い環境を作るため、社員がどう働きかけていけば良いか？ ということをテーマにしています。

このセッションでは上記の趣旨を社員に説明したうえで、小グループに分かれてもらいました。その小グループで上記のテーマでディスカッションをしてもらい、年末に発表することをゴールに活動してもらいます。

本会の中では小グループに分かれたあと、簡単にアイスブレイクを交えながら、今後の方針について相談してもらう時間としました。

さて各グループからどんな意見・提案が飛び出すのか…発表に期待です！

■ 懇親会

全社員集会のあとは懇親会を実施しました。普段なかなか全社でコミュニケーションを取る機会は少ない現状ですが、同じ社員同士で楽しく過ごす時間も大切だと感じられるような賑やかな懇親会となりました！



R&D戦略部 | 活動報告

文：ソフタス R&D戦略部部长 山根 智之

ソフタスグループのみなさま、こんにちは。R&D戦略部の山根です。
R&D戦略部の2024年度は事業計画にも記載しているとおり、下記の4つのプロジェクトを始動させております。今回は昆虫食とデジタルマーケティングの2つのプロジェクトについて、状況などを共有します。皆様に当部の位置づけ・意義を少しでも知ってもらえればと考えております。



山根 智之

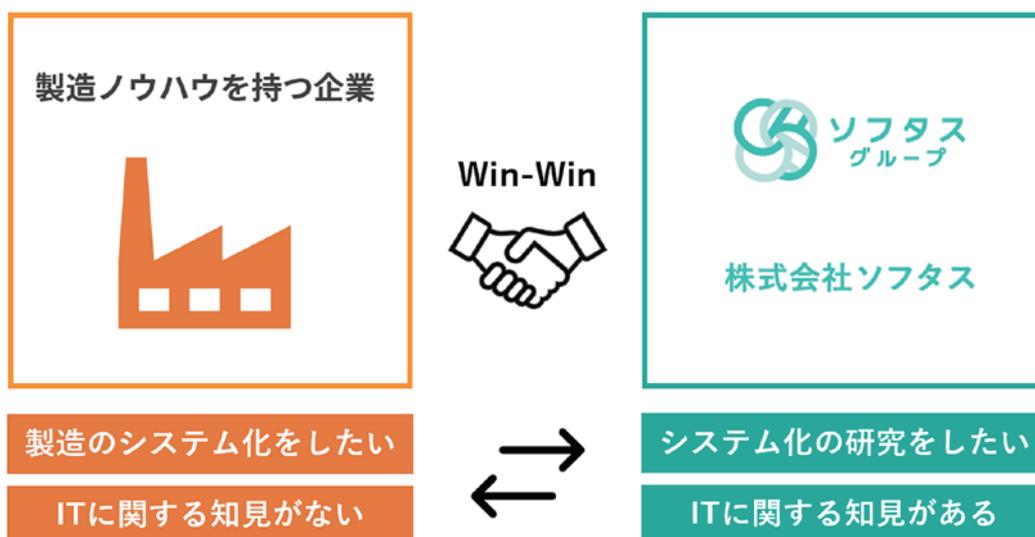
【2024年度に始動した4つのプロジェクト】

- 1 昆虫食ビジネス研究開発プロジェクト
- 2 新規コンサルティングサービス開始に向けた研究開発プロジェクト
- 3 デジタルマーケティングプロジェクト
- 4 採用強化に向けた新たな施策の企画立案プロジェクト

昆虫食ビジネス研究開発プロジェクト

本プロジェクトは、AI／ロボティクスなどの新技術のノウハウ獲得と、新規事業の開発をミッションとして取り組んでいます。

当初、コンサルティングをお願いする予定だった企業が倒産してしまい、振り出しからのスタートとなってしまいました。しかし、昆虫食に取り組んでいる複数の企業様へのアタックを続けた結果、食用コオロギの製造ノウハウを持った企業との共同研究を行える道が見えてきました。先方とはNDAを結んでおり、現在は共同研究の具体的な内容を詰めている段階になります。本年中には一定の成果を見せられるよう、プロジェクトを推進していきます。



デジタルマーケティングプロジェクト

以前、私が担当した経営勉強会にて「ソフトスのブランディング戦略はどうあるべきか？」をテーマにした際、イメージをつくる前に、ソフトスという名の知名度を上げるべきだという議論になりました。(詳細は過去の経営勉強会をご覧ください)

そのため、まずはソフトスの認知度向上をメインの目的として各種メディアを作成することとしました。

各種メディアの紹介

オウンドメディア：ウィズソフトス

(<https://media.softas.co.jp/>)

ブログ形式で経営課題やIT支援、eスポーツの活動などの記事を作成し、ソフトスの知名度、及び企業価値を知ってもらう。ソフトスに限らず、ソフトスグループの商材も紹介していき最終的にはweb経由の新規顧客獲得を目指す。



The screenshot shows the 'With Softas' website interface. At the top is the logo and tagline 'DX推進やITのお困りごと、ソフトスがそばに。'. Below is a green navigation bar with links for 'カテゴリ', 'サービス', '記事一覧', 'お問い合わせ', and '採用ページ'. The main content area displays four article thumbnails:

- Thumbnail 1:** '要点これだけ！メールセキュリティ受信編 -受信編- 3分で読めるセキュリティ'. Below the thumbnail, the text reads: '要点これだけ！メールセキュリティ受信編 ~3分で読めるセキュリティ~'.
- Thumbnail 2:** '経営勉強会議事録 [半導体 ~世界の動向とRapidusの今後~]'. Below the thumbnail, the text reads: '経営勉強会議事録 [半導体 ~世界の動向とRapidusの今後~]'.
- Thumbnail 3:** '10分で学ぶ経営勉強会 [半導体 ~世界の動向とRapidusの今後~]'. Below the thumbnail, the text reads: '10分で学ぶ経営勉強会 [半導体 ~世界の動向とRapidusの今後~]'.
- Thumbnail 4:** '経営勉強会とRapidus'.



みなさまのDX戦略、IT活用をサポートするwebメディアです。

- ・DX推進に役に立つ情報
- ・ITに関するお困りごとを解決するきっかけとなる情報 など



ソフタスグループ YouTube チャンネル

(<https://www.youtube.com/channel/UCO9tgjlzulfTG6whpBmjl7g>)

ソフタスグループの活動を動画にして公開していく予定。eスポーツをはじめとし、ITに関連する情報、商材の紹介なども実施していく。



X | 株式会社ソフタス 広報担当

(https://x.com/softas_PR)

株式会社ソフタスのX (旧 Twitter) アカウント。YouTube やオウンドメディアへの流入経路としての役割を期待し作成。



プロフィールを編集

株式会社ソフタス 広報担当 認証される

@softas_PR

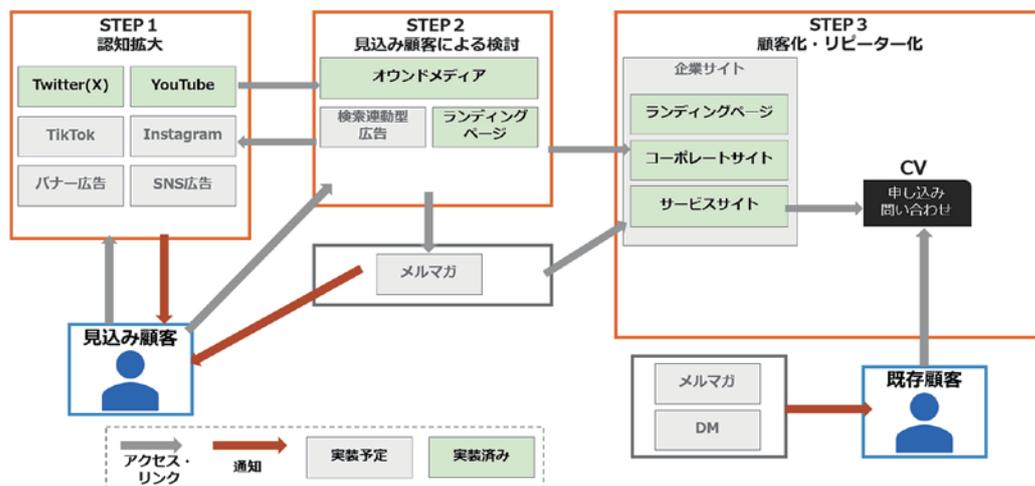
株式会社ソフタスの広報を目的としたアカウントです。東京都新橋のあのよくニュースで流れるSL広場前のニュー新橋ビルにオフィスがあります。独立系Sier企業としてインフラ構築・システムコンサルティングなどのITサービスを提供しております。最近ではeスポーツに力を入れており「DONUTS VARREL」様のスポンサーに！

📍 東京都港区新橋 🌐 softas.co.jp 📅 2024年3月からTwitterを利用しています

3 フォロー中 5 フォロワー

デジタルマーケティングの構想

今後は立ち上げた各種メディアを戦略的に活用し、グループ各社と連携しながら、イメージの向上及び顧客獲得に繋げていきたいと考えています。また、必要に応じて新たなメディアの起ち上げも検討していきます。



【皆様へのお願い】 XのフォローとYouTubeのチャンネル登録をお願いします！

イメージとして、フォロワー数・登録者数は非常に重要だと思います。皆様もこれらが少ないとネガティブな印象を抱くかと思えます。少しでも初見の方にポジティブなイメージを持ってもらいたいため、グループ全社員のお力をお借りしたいと考えております。ぜひともよろしくお願ひいたします。

Xのフォロー & YouTubeのチャンネル登録 よろしくお願ひいたします！



以上、R&D戦略部の活動報告でした。今回報告しきれなかったプロジェクトについては、近いうちに報告ができればと考えております。

IOWN 構想 ～情報化社会に与える影響～

参加者

ソフタス 田口社長、廣川副社長、白井取締役、三浦取締役、藺山執行役員、北村執行役員、
宮本部長、重川部長、江村部長、高石部長、高橋部長、廣瀬部長、那須部長、
山根部長、高瀬課長、山崎社員

ソフタスHD 赤坂副社長、笹本部長

九州ソフタス 瀧澤社長、忽那専務取締役、東取締役

北陸ソフタス 角丸社長、星山副社長、石井取締役

SVC 真鍋執行役員、丸山執行役員、橋本部長



江村 勝久

コンテンツ

はじめに/情報化社会の課題/IOWN 構想とは/IOWN 構想の技術/
なぜIOWN 構想に期待を寄せるのか?/国の取り組みとの関係/関連事例/
考察/議論/質疑応答

はじめに

テーマの選定理由

IOWN 構想が実現することで、社会に大きな影響を与えると考えています。それはIOWN そのものによるものではなく、これを利用する人々や組織によってもたらされると思います。IOWN 構想がどのようなものであるかを学び、将来の情報化社会について考えるため、このテーマを選びました。

議論したい点

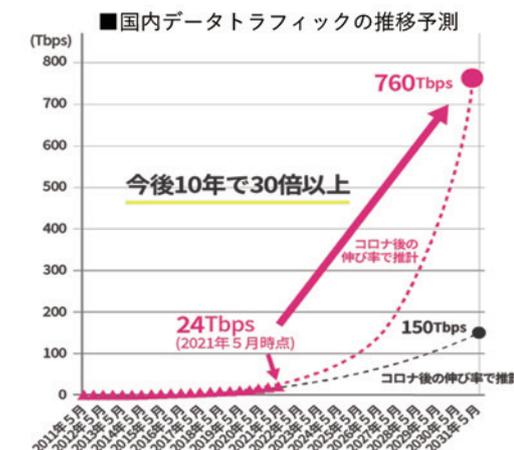
ソフタスにおいて、新たなビジネス機会や業務の変容が考えられるため、これらについて議論したいと考えています。

情報化社会の課題

①トラフィックの増加

今後、トラフィックの増加やネットワークの複雑化、^{ふくぞう}輻輳による遅延の増加といった重大な課題に直面するため、情報通信システムのプレイクスルー（大きな変革）が求められています。

経済産業省の産業構造審議会では、国内データトラフィックが今後10年で30倍以上増加すると予測しています。

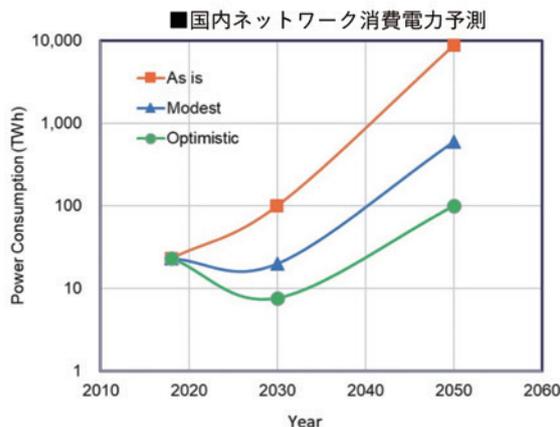


経済産業省第9回 産業構造審議会 グリーンイノベーションプロジェクト部会 産業構造転換分野ワーキンググループ 資料5 (2022年9月)

②消費電力の増加

情報化社会の進展がエネルギー消費に与える影響について調査したところ、ネットワーク消費電力の抑制が課題となっています。特にルーターと無線基地局が大きな消費電力を占めていることがわかりました。

右のグラフは、何も対策を講じなかった場合（オレンジ）、現行技術で改善した場合（青）、光電融合技術を導入した場合（緑）の消費電力予測を示しています。



As is:何も対策をしない場合

Modest:現行技術での改善 (ソフト、ハード、アーキテクチャ)

Optimistic:光電融合技術を導入

国立研究開発法人 科学技術振興機構(2023年2月)

「情報化社会の進展がエネルギー消費に与える影響(Vol5)」

IOWN構想とは

①目的

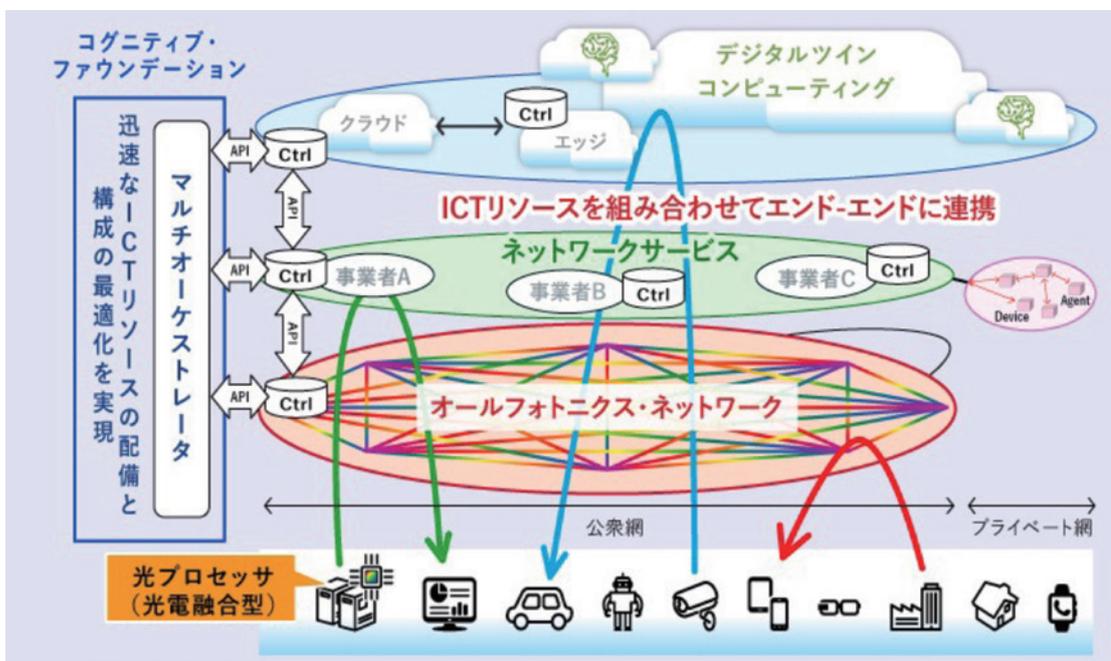
IOWN (Innovative Optical and Wireless Network) 構想とは、高速大容量通信や膨大な計算リソースを提供できる革新的な光通信技術を中心とした新しいネットワークや情報処理基盤の構想です。2024年の仕様確定、2030年の実現を目指しており、情報処理能力を高め、既存のインフラの限界を超えて多様性を受容できる豊かな社会を創ることを目的としています。

②概要

IOWN構想は、NTTが次世代インフラとして開発・研究を進めている通信基盤です。光技術を中心とした3つの核心技術により、5Gよりも高速化・大容量化・低遅延化を実現することを目指しています。2030年の実現を目指して、研究・開発が進められています。

3つの核心技術

- オールフォトニクス・ネットワーク (すべてに光交換を使用したネットワーク)
- デジタルツインコンピューティング (実世界とデジタル空間を融合させる技術)
- コグニティブ・ファウンデーション (あらゆるICTリソースを最適に制御する技術)



③実現に向けた協力体制

NTTは、IOWN構想の実現と普及に向けて、世界各国のパートナーと連携するためのIOWN Global Forumを設立しています。

2023年10月時点で134の組織・団体が参画しています。

(参考) IOWN Global Forumメンバー加入状況

8

※アルファベット、五十音 順

Sponsor Members (34)

Chunghwa Telecom	Nokia	VMware	トヨタ自動車株式会社	株式会社三菱UFJ銀行
Ciena	Oracle Japan	アクセントゥア株式会社	日本電気株式会社	楽天モバイル株式会社
Cisco Systems	ORANGE	キオクシア株式会社	日本電信電話株式会社	
Dell Technologies	PwC Japan	KDD株式会社	株式会社 博報堂	
Delta Electronics	Samsung Electronics	情報通信研究機構 (NICT)	富士通株式会社	
Intel	SK hynix	住友電気工業株式会社	古河電気工業株式会社	
Microsoft	SK Telecom	ソニーグループ株式会社	株式会社みずほ銀行	
		デロイト トーマツ	三菱電機株式会社	

General Members (81)

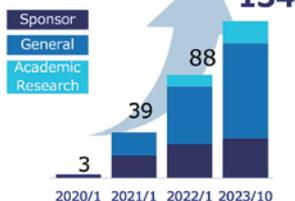
Accton Technology	アイオーコア株式会社	ケル株式会社	東洋インSC&I*イグ*株式会社	本多通信工業株式会社
Advanced Micro Devices	株式会社アイン	京セラ株式会社	凸版印刷株式会社	三井化学株式会社
Avago Technologies International Sales	I-PEX株式会社	santec株式会社	日揮株式会社	三井情報株式会社
CommScope	味の素株式会社	J S R株式会社	日産化学株式会社	株式会社三菱ケミカルホールディングス
DriveNets	株式会社アドバンテスト	J X 金属株式会社	日産エレクトロニクス株式会社	三菱重工株式会社
Infimera	APRESIA Systems 株式会社	徳越化学工業株式会社	日鉄ケミカル&マテリアル株式会社	三菱商事株式会社
IP Infusion	株式会社 安藤・間	新光電気工業株式会社	日本防諷株式会社	株式会社三菱総合研究所
Juniper Networks	アンリツ株式会社	スカー-JSAT株式会社	日本ガイシ株式会社	株式会社ミライズ テクノロジーズ
Keysight Technologies	イソーソリューションズ株式会社	住友化学株式会社	日本ユニバーサル*ド*合同会社	株式会社ミライト
NVIDIA	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	住友商事九州株式会社	ネットアップ合同会社	株式会社村田製作所
ProteanTecs	イビデン株式会社	住友ベークライト株式会社	ネットワンシステムズ株式会社	矢崎総業株式会社
Qualcomm	AGC株式会社	S O M P Oホールディングス株式会社	株式会社白山	ユニアデックス株式会社
SEKCO Advanced Components	エクシオグループ株式会社	大成建設株式会社	株式会社ピアス	株式会社リコー
TELEFONICA	SCSK株式会社	大日本印刷株式会社	東日本旅客鉄道株式会社	ルネサス エレクトロニクス株式会社
VIAVI Solutions	沖電気工業株式会社	株式会社電機グループ	株式会社日立製作所	
Wistron	株式会社オプテージ	株式会社電機グループ	株式会社フジクラ	
	オリバス株式会社	株式会社東芝	株式会社Preferred Networks	

Academic or Research Members (19)

産業技術総合研究所(AIST)	SBI大学院大学
台湾雲端物聯網産業協會(CIAT)	大阪大学
電力中央研究所(CRIEPI)	慶應義塾大学
資訊工業振興會(III)	滋賀大学
工業技術研究院(ITRI)	東京大学
宇宙航空研究開発機構(JAXA)	東北大学
防災科学技術研究所(NIED)	名古屋大学
国立情報学研究所(NII)	広島大学
光電子融合基盤技術研究所(PETRA)	
光電科技工業協進會(PIDA)	
台湾資通産業標準協會(TAICS)	

NTT資料より作成

アジア・米州・欧州を含む
134組織・団体が参画
※2023年10月時点

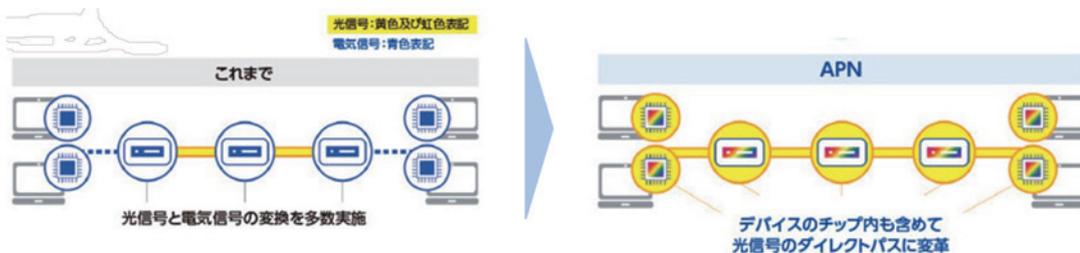


総務省 国際戦略局 技術政策課「革新的情報通信技術(Beyond 5G(6G)) 基金事業におけるオール光ネットワークの共通基盤技術に係る検討について」(令和6年2月28日)より

IOWNの技術: オールフォトニクス・ネットワーク

①概要

オールフォトニクス・ネットワーク (APN) とは、ネットワークから端末まで、すべてが**光電融合技術**(フォトニクス (光) ベースの技術) を導入した機器で結ばれた通信網です。これにより、従来のエレクトロニクス技術では困難であった大幅な低消費電力、高品質・大容量、低遅延を実現します。



②目標性能値

2030年には、消費電力を現在の100分の1に抑え、大容量高品質で転送容量を現在の125倍、低遅延を現在の200分の1にすることを目指しています。

<p>低消費電力</p> <p>電力効率</p> <p>100倍</p> <p>1/100の低消費電力で 各種情報通信サービスを提供</p> <p>※フォトニクス技術適用部分の電力 効率の目標値</p>	<p>大容量・高品質</p> <p>伝送容量</p> <p>125倍</p> <p>瞬きの間（0.3秒）に2時間の 映画を1万本ダウンロード可能 （5Gでは3秒で1本可能）</p> <p>※光ファイバ1本あたりの通信容量 の目標値（1000Tbps）</p>	<p>低遅延</p> <p>遅延</p> <p>1/200</p> <p>デジタルテレビや衛星放送の ような遅延なしに、リアルタイムで 映像を転送</p> <p>※同一県内で圧縮処理が不要となる 映像トラフィックの目標値</p>
--	--	---

③光電融合技術

光電融合技術

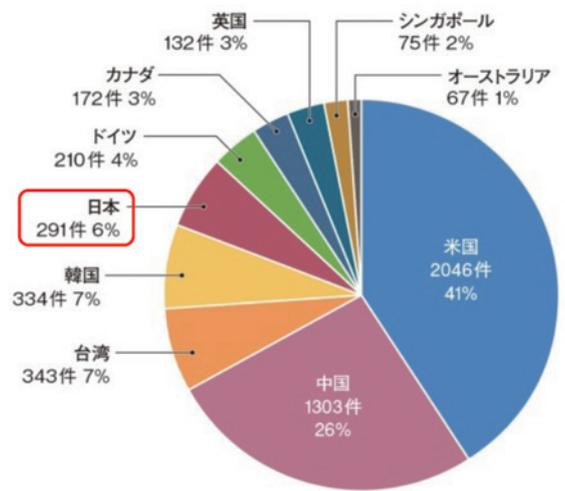
従来、電気で行っていたコンピューターの計算を光を用いた処理に置き換える技術です。光は電気に比べてエネルギー消費が小さいため、大幅な省電力化が期待されています。特に「**シリコンフォトニクス（光集積回路）**」技術が注目されています。

シリコンフォトニクス

シリコン半導体の製造技術を用いて、シリコンウェハ上に光の回路、すなわちフォトニクス回路を構築する技術です。

右の円グラフは、シリコンフォトニクスに関する国ごとの累計特許出願数を示しています。アメリカが最多で、続いて中国、日本は291件で全体の6%、5位となっています。

■シリコンフォトニクスに関する
国ごとの累計出願数（1976～2023）



IOWNの技術:『デジタルツインコンピューティング』

①概要

デジタルツインコンピューティングとは、**多様な産業やモノとヒトのデータを自在に掛け合わせて演算を行う**ことにより、自然環境や都市におけるヒトと自動車など、これまで総合的に扱うことができなかった組合せを高精度に再現し、さらに未来の予測（シュミレーターなど）ができるようになるデジタル基盤のことです。



デジタルツインコンピューティングを支える「4Dデジタル基盤※1」

※1：4Dは緯度・経度、高さ、時間のこと

② デジタルツインの適用域

4D デジタル基盤上でデータを統合・蓄積・分析することで、さまざまな社会問題の解決に寄与できると考えられています。

適用域の例

適用域	内容	適用域	内容
能力拡張	知的業務・知能を強化する能力拡張や自律的に行動・成長するデジタルツインとの協働を実現	人流 / 交通の最適制御	空間と時間の 4D 情報を活用した人流 / 交通等の制御。気象、スケジュールまで組み合わせた混雑 / 渋滞 / CO2 最小社会を実現
意思決定	さまざまな自身の可能性・未来像を提示し、自らの意思決定に活用	都市エネルギー予測	都市レベルでリアルタイムなエネルギー・インフラ（電気、ガス、水道他）の需要予測・高効率利用を実現
人知活用	多様な個性や専門性を掛け合わせ、瞬時の合意形成やアイデア創発に活用	未来都市のデザイン	4D 情報の中長期の変動予測による都市開発、ヒトの社会活動まで試行 / 予測した新たな街づくりの実現
医療検診	整体センシングとライフスタイル分析による個別化・予測型の医療、行動変容に活用	地球規模のデジタル再現	地球全体の地形、気候変動等をデジタル化し、大規模自然災害の予測・対策することで、持続可能な国・街づくりを実現

IOWNの技術:『コグニティブ・ファウンデーション』

① 概要

コグニティブ・ファウンデーションとは、クラウドやネットワークサービスを含むあらゆる **ITリソースの配備や構成の最適化**、すなわち構築・設定および管理・運用を一元的に実施するものです。ITリソースの配備や構成の最適化、さらには完全自動化・自律化、自己進化を通じて、サービス事業者が本来のビジネスに注力できるよう、研究が進められています。

② 特徴

コグニティブ・ファウンデーションの鍵となる技術が「**マルチオーケストレータ**」です。これは、サービス事業者の要望に応じて、さまざまなITリソースの配備や構成の最適化を一元的に実施することで、コグニティブ・ファウンデーションを実現します。マルチオーケストレータは、次の3つの機能群で構成されています。

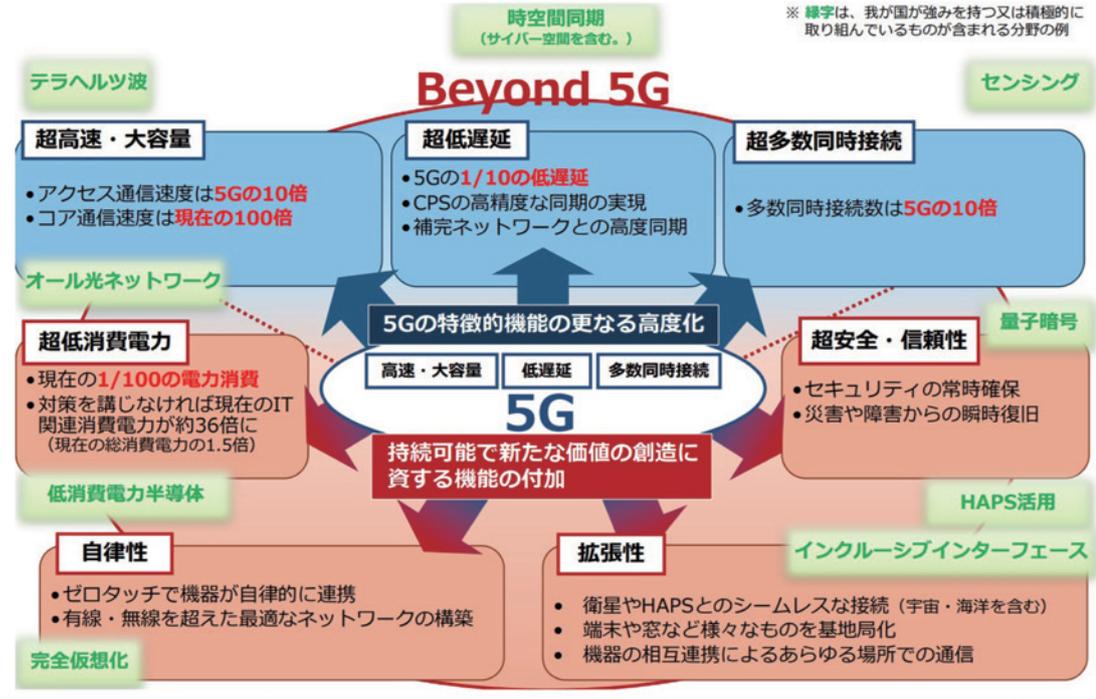
機能群	説明
オーケストレーション機能群	ワークフローエンジンとITリソースごとに適したコマンドに変換するアダプタ群
マネジメント機能群	標準データモデルに基づく構成情報、設計情報などの管理機能群
インテリジェント機能群	設計・構築・試験から運用などのITリソースを常に最適に保ち自律運用を可能とするAI機能群

IOWNの技術:『Beyond 5G』

①概要

3つの核心技術の他に、「Beyond 5G」という技術があります。Beyond 5Gとは、5G以降の無線通信技術を指します。現在は6Gの開発が進んでいますが、これをIOWN構想と補完し合うことで実現しようと考えています。以下の図がその概念を示しています。

■Beyond 5Gに求められる機能



※総務省「Beyond 5G 推進戦略～6G へのロードマップ～」

図の中央の円が現在の5Gであり、その特徴である高速・大容量、低遅延、多数同時接続が示されています。青い矢印が指し示す先のBeyond 5Gでは、通信速度が5Gの10倍、低遅延が5Gの10分の1、同時接続が5Gの10倍になると予測されています。また、下方に向かう赤い矢印は、Beyond 5Gがもたらす「新たな価値の創造に資する機能の付加」を示しています。

これらはBeyond 5Gに求められる機能として、総務省が提唱しているものです。

なぜIOWN構想に期待を寄せるのか？

① IoT デバイス数の増加と利用範囲の拡大

2024年現在、世界中のIoTデバイス数は推定でおよそ140億から150億台に達しており、2030年までに400億台から750億台に増加すると予測されています。

主な要因

スマートホームの普及	スマートスピーカー、スマート照明、スマートサーモスタットなどの消費者向けデバイスの人気が高まっています。
産業用途	製造業、物流、農業などの分野で、効率化と自動化を目指したIoTデバイスの導入が進んでいます。
医療とヘルスケア	リモートモニタリングデバイスやウェアラブルデバイスが、個人の健康管理や医療機関の業務効率化に寄与されることが期待されます。
インフラと都市管理	スマートシティの実現に向けた取り組みが進み、交通管理、エネルギー管理、廃棄物管理などの分野でIoTデバイスが活用されています。

② AI によるトラフィックの増加

AI技術の普及とその応用範囲の拡大により、トラフィックが大幅に増加することが予想されます。

主な要因

データ処理と分析	AIシステムは膨大なデータを処理・分析するため、クラウドサービスへのデータアップロードやダウンロードが増加します。特に機械学習モデルのトレーニングには大量のデータ転送が必要です。
リアルタイム AI アプリケーション	自動運転車、スマートシティ、ヘルスケアなど、リアルタイムでAIを利用するアプリケーションが増加すると、それにともないトラフィックも増加します。
AI 駆動型サービスの普及	AIチャットボット、音声アシスタント、画像認識サービスなど、一般消費者向けのAIサービスが普及することで、トラフィックが増加します。
デバイス間の通信	IoTデバイスの増加とともに、これらのデバイスがAIを活用して相互に通信し、データを交換するため、トラフィックが増加します。

国の取り組みとの関係

① 経緯

2015年、総務省の「新たな情報通信技術戦略の在り方について」の審議会において、独立行政法人情報通信研究機構（以下、NICT^{*1}）が「**イノベーションのシーズを生み出すための未来への投資として、国やNICTの基礎的・基盤的な研究開発をしっかりと進めていくことが必要**」と答申しました。このため、NICTは中期目標・計画において、情報量の増大、消費電力の低減などの要請に応えるため、安心・安全なネットワークの実現を目指して「**オール光ネットワーク**」を挙げています。

***1 NICT**：NICTとは、IT分野を専門とした日本の公的研究機関。2015年4月に独立行政法人から国立研究開発法人に移行。

② 政策上の位置づけ

岸田内閣では、主要政策である新しい資本主義の中で“デジタル社会への移行”を推進しています。その中で「デジタル田園都市国家構想」の推進が成長戦略の重要な柱の一つとされています。総務省は、2023年4月に「デジタル田園都市国家インフラ整備計画（改訂）^{*2}」を公表し、以下の3つの柱に基づく取り組みを進めています。

***2 デジタル田園都市国家インフラ整備計画（改訂）**：2022年3月に策定され、その後の取組の進捗及び社会情勢の変化を踏まえて2023年4月に改訂。

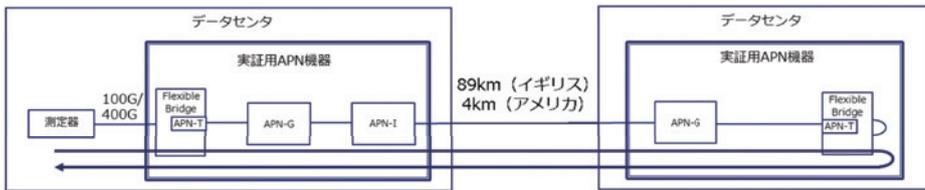
- 光ファイバー、5G、データセンター/海底ケーブルなどのインフラ整備を地方ニーズに即してスピード感を持って推進する。
- 「地域協議会」を開催し、自治体、通信事業者、社会実装関係者などの間で地域におけるデジタル実装とインフラ整備のマッチングを推進する。
- 2030年代のインフラとなる「Beyond 5G」の研究開発を加速する。研究成果は2020年代後半から順次、社会実装し、早期のBeyond 5Gの運用開始を目指す。

NTTのIOWN構想には、国から約400億円の補助が行われています。

関連事例

① データセンターの分散化

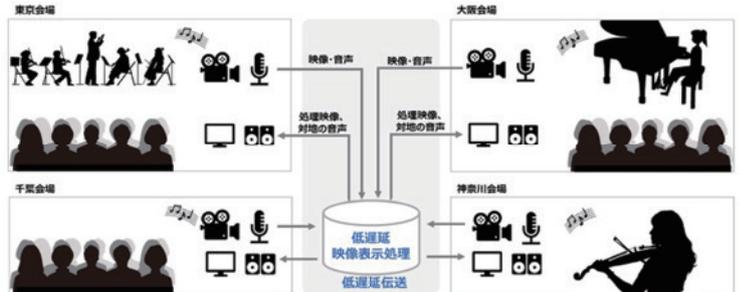
APNで接続することで、分散しても同一拠点内のデータセンターのような環境を構築する検証が行われています。イギリスでは、約90キロ離れたデータセンター間を結び、遅延や揺らぎを測定した結果、遅延は1ミリ秒以下、揺らぎもほぼない状態でした。



	遅延	遅延ゆらぎ
イギリス	0.893ミリ秒	0.035マイクロ秒
アメリカ	0.062ミリ秒	0.045マイクロ秒

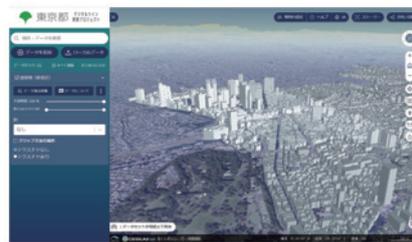
②低遅延技術で繋いだリモートコンサート

東京、大阪、千葉、神奈川の4拠点に楽器演奏者を配置し、同時に演奏を行うリアルタイム・リモートコンサートを実施しました。結果として、聞こえ方に違和感がなく、コンサート会場にいるかのような鑑賞体験が得られました。



③東京都のデジタルツイン実現プロジェクト

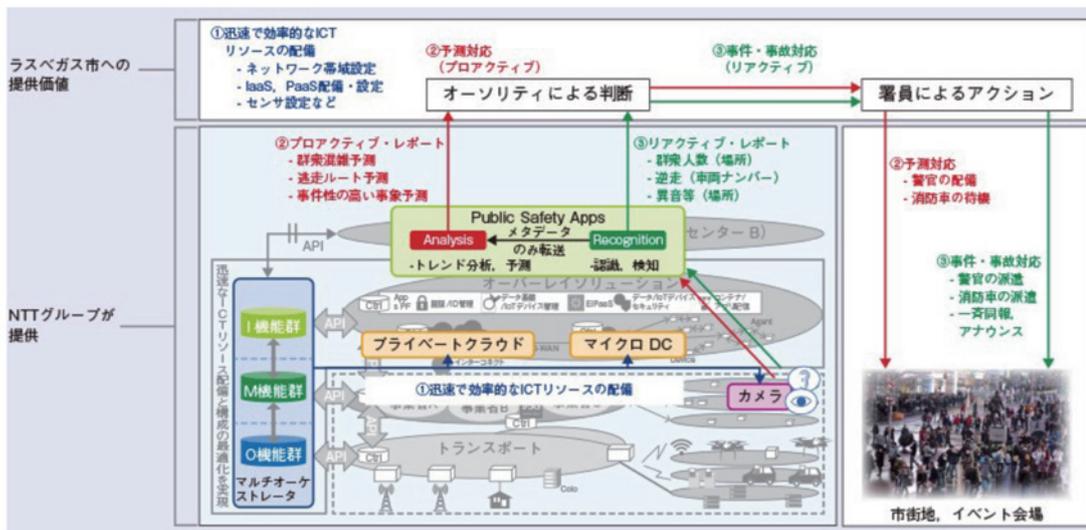
東京都は「デジタルツイン実現プロジェクト」を独自に進めており、都市計画などにおけるデジタルツインの活用を検討しています。



<https://info.tokyo-digitaltwin.metro.tokyo.lg.jp/>

④ラスベガス市のスマートシティソリューション

ラスベガス市では、コグニティブ・ファウンデーションを基盤としたスマートシティソリューションが展開されています。町の監視カメラからのデータを分析・予測し、町の安全確保に役立つソリューションの開発が進められています。



考察

IOWNは、将来の情報通信によるトラフィックの増加や消費電力の課題を解決するだけでなく、社会全体のデジタルトランスフォーメーション(DX)を支援する基盤技術(プラットフォーム)であると言えます。これにより、産業や社会の効率化、利便性の向上、新しいビジネスモデルやイノベーションの創出が期待されます。

IOWN 構想が実現した際のソフトスへの影響

- ソフトスの新しいビジネス機会になる可能性があるか？
- 現在の業務にどのような影響があるか？

質疑応答

IOWN 構想でソフトスから新しいビジネスが生まれるか

廣川 数年前から IOWN 構想^{*1} が言われ始めました。

江村 IOWN 構想に関連して、ソフトスから何か新しいビジネスが生まれそうですか。

臼井 生まれないでしょう（笑）。

廣川 新しいビジネス機会になるかどうかは別として、現在のビジネスが IOWN になっても、同様の業務は続くだろうから、それがビジネス機会の創出になるかという、ならないのではないのでしょうか。

江村 今あるものが大きくなっていく可能性はありますが、大きな変化ではないかもしれません。

廣川 余計に人の手がかかるかといえば、かからなくはなるだろうけれども、結局、ある程度は自動化されるとしても、ネットワークの設定などは人の手が必要です。すべてのパソコンに光 IC チップが採用されれば違うのだろうけれども、相変わらず普通のパソコンも稼働している状態であれば、あまり変わらないような気がします。

臼井 確かにそんなに影響はないかもしれませんね。

廣川 消費電力は減るかもしれませんが、それが大きな変化をもたらすかは別問題です。

江村 調べてみたところ、データセンター事業に消費電力の制限値が課せられています。その目標に向けて省エネを頑張らなさいという動きがあるようです。

高瀬 今の 5G も、私は思ったより劇的な効果がなかったと思います。

江村 「5G は NTT の失敗だ」とも言われています。

高瀬 5G はクライアントに基板で提案したい時に気軽に使えないという面がありました。ビヨンド 5G になった場合、たとえば「人が集まる場合だけの使用も可能」といった使い方ができるような技術が付加されれば、新しいビジネスのあり方、業務への影響は結構あるのではないかとみています。

江村 結局、5G 技術を先行させれば、コンテンツは後からついてくるだろう、5G を欲する人がたくさんいるだろうと思っていたのに、実際は世間があまりついてこず、5G も本来の性能が出せないままにいるといった状況になっています。

瀧澤 Wi-Fi で十分ですからね。

江村 5G があまり普及しなかった、効果が出せなかったという反省から、IOWN のグローバルフォーラムでは、最初から使う側の企業も一緒に参加してもらい、使う側の意見も吸収しながら進めているようです。

廣川 技術が先行しても、5G が思ったほど速くなかったので、あえて 5G にしなくてもよかつ



***1 IOWNの起源**：NTT コミュニケーションズの山下達也氏(イノベーションセンター 副センター長/テクノロジー部門長/IOWN 推進室長)は、IOWNの起源についてインタビューで「NTTが発明し2019年4月に発表した世界最小の消費エネルギーで動く光トランジスタですが、この光デバイスの開発はさらに発展し、2020年には、世界初の超高速と低消費電力を両立した全光スイッチ、世界初の光の干渉だけで任意の論理演算ができる超高速光論理ゲート、世界最高速の帯域100GHzを超える直接変調レーザなどの発明を成し遂げ、光技術の可能性を格段に広げることができました。そして、今後、光の演算処理をチップの中に内蔵する「光電融合型プロセッサ」を実現することを目指しています」と答えています。

たということだね。

瀧澤 5Gが普及しない理由として、基地局を大量に設置する必要があるなど、資本がかかることが挙げられます。NTTやドコモの取り組みについて、具体的な情報はありますか。

江村 ドコモは渋谷区のイベントでAPN（オールフォトニクス・ネットワーク）を活用していたりしますが、ビジネス的にはまだ成果が見えていないようです。

新たな技術が登場しても、インフラが整わないとサービスが創出されない

瀧澤 スマートシティではどのように活用されるのでしょうか。

江村 ラスベガス市のスマートシティソリューションの図は初期段階のもので、現在はさらに進化していると思います。

角丸 IOWN構想にはトヨタも関わっているのですか。

江村 トヨタも参加しており、スマートシティの研究を進めています。ソフトバンクは参加していません。また中国の企業は参加していませんが、台湾の企業が参加しています。

廣川 インフラが速くなれば、いろいろなサービスの可能性が増えるでしょうけれども……。

角丸 どのくらい劇的に速くなるのか、ですね。

廣川 北陸の角丸さんと東京の人でデートできるみたいな……。

角丸 ラグが減るのでeスポーツなどでは、早く実現してほしいですね。

江村 IOWN構想に関する記事の中で、よくeスポーツの話題も出てきます。

廣川 サービスの可能性はいろいろと出てくるだろうけれども、それがソフタスにどういう影響があるかというところ……。

臼井 5Gの経営勉強会か、記念誌の討論会のときにも、同じような発言になったような気がします。

山根 ここから日本のイノベーションについて考えますか。

角丸 IOWN構想で差別化ができるものですか。

江村 日本の強みにはなり得るのではないですか。NTTは、世界中にデータセンターを作り、それをAPNで繋げることを目指しています。

瀧澤 結局、NTTが5Gで負けたので、アメリカと組んで再度日本でイニシアチブを取ろうとしているのです。今回のIOWN構想では、低消費電力などを掲げ、SDGsと絡めて推進しようとしています。

角丸 社会実装はいつ頃を目指していますか。

江村 2030年です。量子コンピュータ^{*1}が実用化する前に、IOWN構想を実現したいと考えています。

角丸 日本の量子コンピュータの開発状況はどうなっていますか。

山崎 進んでいるという記事も見ました。

瀧澤 SVCの社員のお父さんが大学で量子コンピュータの研究をしているそうで、興味があれば時間を作ると言われたことがあります。

臼井 非常に興味があります。

廣川 こうした技術はインフラが整ってからサービスが追いついてくるものです。

江村 新しいものが出てくる可能性はありますが、どうなるかはまだ未知数というところでしょうか。

重川 以上で経営勉強会を終わります。

*1 量子コンピュータの

現在：日本では、量子コンピュータ研究が急速に進展しており、特に理化学研究所(理研)や東北大学を中心に、さまざまな技術革新が行われています。

理研は超伝導量子ビットやシリコン量子ビットに関する最先端の研究を行っており、超高速な量子計算や量子誤り訂正手法などの開発に成功しています。

<https://www.riken.jp/research/labs/rqc/>

経済産業省も量子コンピュータの研究開発を戦略的に推進しており、アーリーアダプターの開発を特に重視しています。これは、世界中で進行する量子コンピュータの開発競争において、日本が独自の技術力を生かすための取り組みです。

<https://www.sbbit.jp/article/cont1/36552>

IBMと協力して量子コンピュータの実用化を進めるなど、産学官の連携が強化され、研究開発の加速が期待されています。

<https://www.sbbit.jp/article/cont1/36552>

日本の量子コンピュータ技術は、現在も大きな進展を遂げており、将来的な産業応用に向けた基盤作りが進んでいます。

キャリアアップストーリー

大規模プロジェクト遂行が、やりがいと自信に

山越 弘和

株式会社ソフタス



「趣味は庭の芝刈りと洗車」と語る山越さんの影（左）



一現場目：某電気会社のヘルプデスク

私のキャリアは、他社でパソコンユーザーからの技術的な問い合わせに対応するヘルプデスクからスタートしました。約3年間、パソコン利用時の多種多様な質問にメールや電話で対応していく中で、パソコン及び周辺機器のハード関連スキルだけでなく、アプリの利用環境に関する初歩的なWindowsのOS設定等も学びました。

ユーザー対応という意味では、今のようにリモートで相手環境に乗り込む事が出来なかったため、お客様の質問（発言）からハードの動作状況や表示されたメッセージを聞き取り、実機上で起きていることが何か？を正確に類推して対応を判断する必要があったため、お客様とのコミュニケーション能力やユーザー視点での問題解決能力という点では、貴重な経験をさせて頂きました。この経験から、単なる技術支援（タスク）にとどまらず、ユーザーのニーズや悩みを理解し、それに対して迅速かつ的確に対応することが重要だ、という視点を養う重要なステップとなりました。



二現場目：某省庁でのオペレーション

その後、30歳でソフタスに入社し、某省庁の会計システムのオペレータとして配属されました。ここでの業務は、お客様からの連絡を待つヘルプデスクとは大きく異なり、事前に用意された1日分の作業手順に沿って、正確にコマンドオペレーションを行い、予定された時間までに完了させる。又、異常があれば即座にエスカレーションし、指示を仰いで対応していく

という作業でした。

運用スケジュールの厳守が言われる中でも、コマンドオペレーションでは必ず二人で読み合わせを行ってからENTERキーを押すなどの詳細なルールが決まっていたのですが、状況的に多忙となる瞬間に基本動作が徹底されずオペレーションミスが起きることがあり、その後に再発防止の為の基本動作手順の再検討をすることで、正確な基本動作の重要性と、それを継続的に守るための考え方などを身に付けることができました。

チームリーダーを担当した期間は、日々のスケジュールからチームでの正確で効率的な業務遂行する手順を判断・指示するなど、システム運用管理の基本的なノウハウと、システム変更に伴う運用手順の検討や変更イベント作業の進捗管理などに最初から携わる事で、変更管理手順や必須確認ポイントを理解するなど、この時期に基本的な運用管理知識やリーダーシップについて学びました。



三現場目：大手SIerでのシステム機器導入設計、運用設計および運用管理

次に従事することとなったのは、データセンターへの機器導入と運用管理の業務で、データセンターという大規模な環境で、機器の導入から運用、さらにその運用管理までを一貫して担当しています。

システム導入に伴う電源設計・ラック設計・ネットワークの工事設計に始まり、運用要件に沿った運用手順の検討・運用ドキュメントの準備およびオペレータへの事前訓練など、システム運用を開始するまでの受け入れ手順全体を担当することで、工事設計や運用設計などのハード関連スキルだけでなく、プロ

プロジェクト管理や効率的な運用設計といった多岐にわたる知識と経験を得ることができました。

これまでのキャリアの中で特に印象に残っているのは、大手外食チェーンのシステム導入や、金融系システムのリプレイス、某省庁のスーパーコンピュータを利用したシステムの導入に携わったことです。これらのプロジェクトは、いずれも高い技術力と運用管理能力が求められる大規模プロジェクトでした

が、それに携わり無事終了できたことは、やりがいにも自信にもつながりました。

現在、主任としてメンバーの教育や要員管理の業務も担当しておりますので、これからの目標としては、これまでの経験と学びを活かし、メンバー一人一人の能力育成はもちろん、チーム全体のより一層の成長と成果を追求していきたいと考えています。

業務経歴と学べたこと

	業務名	学べたこと		
		技術知識	ビジネス知識	
一現場目	27歳～29歳 (3年) ヘルプデスク	PCヘルプデスク業務(お問い合わせ対応、障害報告)		
		ヘルプデスク業務	ビジネスコミュニケーション ヘルプデスク基本動作 ユーザ視点での問題解決能力	
		インシデント管理ツール構築	インシデント管理の基本	
二現場目	30歳～36歳 (7年) オペレータ	IBM汎用機オペレータ		
		業種 官庁		
		規模 -		
		汎用機オペレータ	汎用機OSの基礎知識	
			媒体・プリントオペレーション	
			障害一次切り分け	関連部署報告・報告書作成
		オープンシステムオペレータ	Windowsサーバの基礎知識	
			Unixサーバの基礎知識	
			ネットワークの基礎知識	
		運用管理リーダー	オペレーション管理	運用管理知識
	運用変更	変更管理知識		
	イベント管理・進捗	プロジェクト進捗管理知識		
三現場目	36歳～ 導入設計・ 運用設計・管理	データセンタ導入設計・運用設計・運用管理		
		業種 -		
		規模 小規模～大規模まで		
		機器導入設計	ラック設計・電源設計	機器電源設計・工事知識
			ネットワーク工事設計	ケーブル知識、工事知識
			機器導入スケジュール管理	機器導入プロジェクト管理
			機器撤去対応	機器撤去プロジェクト管理
		運用設計	契約受託条件・運用手順作成	顧客契約事項のドキュメント化
			オペレーションマニュアル作成	運用実行ドキュメント作成
			報告関連ドキュメント作成	運用報告ドキュメント作成
			運用訓練	オペレータへの運用導入訓練
		運用管理	日次進捗確認	進捗管理
			トラブル対応	トラブルエスカレーション
			運用変更対応	運用変更管理
		見積・工程管理	変更工数見積	見積管理
			プロジェクト進捗管理	進捗管理





在宅医療介護連携システム [aHMS (アームス)] 開発ストーリー

文：九州ソフトス 長谷川 朋紀

開発の背景

aHMS (アームス) は「at Home Medical Service system」(在宅医療連携システム) を略したものです。

本来は「at Home Medical Relation System」になるのですが、略して読みにくいので変えました。

きっかけは一昔前に遡ります。ソリューションサービス部にホームページをCMSで管理しやすいものにニューアルしたいとの相談があり、ホームページ作成について顧客を訪問し打合せを行う事になりました。顧客は熊本県内の地域医師会で、ホームページとしては一般的なもので、所属している地域中核病院、地域個人病院、地域包括センターや介護施設等の中で在宅医療を行っている病院の休日当番等の照会ができる機能を追加したものでした。

その打合せの中で、在宅医療現場のリアルな話や在宅医療における関係者の連携や課題の話を知ることができました。現在は改善が進んでいる様ですが、当時ケアマネージャさん、かかりつけ医師が気にされていたのが、一人暮らしの老人が病死・自然死により自宅で亡くなるケースです。自宅で亡くなっていた場合、基本的には変死扱いとなり警察で捜査・司法解剖のあと、ご遺族のもとに戻ってくるようになります。(病院で亡くなった場合は医師の診断により変死扱いとなりません)

関係者では日常からケアしており、病気の把握や服薬管理のサポートをおこない日常を把握していることから変死扱いとなる事に沈痛な思いをされていました。そこで当該地域医師会のIT担当者と一部の個人医院ドクターから「日常の様子、病歴等を記録・共有し、それをかかりつけ医や医師会からの情報として提示し司法解剖のケースを減らす取り組みができるのでは！」という発案からaHMSの原型である在宅医療連携システムを作る事となりました。

仕様検討は大変、大騒ぎ！

プログラムの部分の難易度は高いものではなく、システムの内容、運用をどのようにするかを決める部分が難航しました。

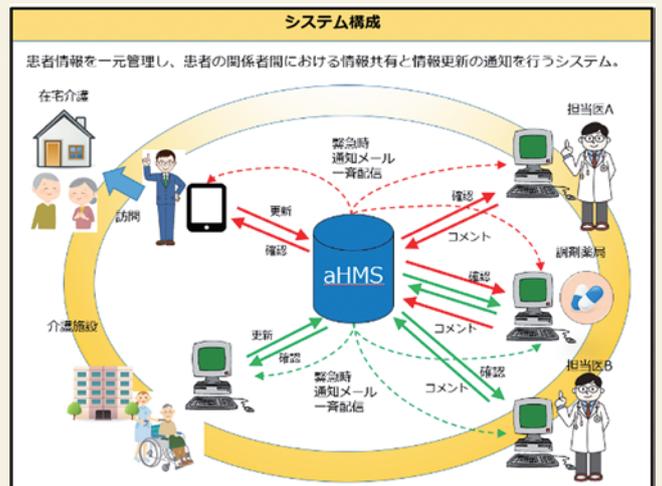
写真1は当時の検討会の様子で、外科・内科・歯科・皮膚科等各分野のドクター、看護師、薬剤師、ケアマネージャ等のシステムを利用される現場の方々が、分野毎の分科会に分かれ仕様を検討されていまし



(写真1) 在宅医療連携システム仕様検討会議の様子
提供：地域医師会

た。九州ソフトスに依頼されたこととしては、ITリテラシーが高くない人も多いため、わかりやすいインターフェース画面、シンプルな画面による運用負荷軽減の検討を任されました。

我々が検討したのは文字サイズは大きめ、文字間隔が広く、できるだけクリックでの選択式入力を多くし入力が容易になるような形が望ましいと考え図2、図3のようなインターフェースを提案し採用していただきました。



(図1) 運用コンセプトイメージ

在宅介護・医療連携システム

スタッフ情報一覧

新規登録

スタッフ情報検索

スタッフ名	担当	権限	有効/無効	更新日	削除
藤村 光	管理者	管理者	有効	2016/07/21	削除
宇土 テストユーザ5	その他	一般	有効	2016/03/15	削除
宇土 テストユーザ4	その他	一般	有効	2016/03/15	削除
宇土 テストユーザ3	その他	一般	有効	2016/03/15	削除
宇土 テストユーザ2	その他	一般	有効	2016/03/15	削除
宇土 テストユーザ1	その他	一般	有効	2016/03/15	削除
内科 次郎	内科	一般	有効	2016/03/14	削除
外科 太郎	外科医	一般	有効	2016/03/14	削除
介護支援専門員 一般-無効	介護支援専門員	一般	無効	2016/03/10	削除
管理栄養士 一般-無効	管理栄養士	一般	無効	2016/03/10	削除
外科医-管理者-有効	外科医	管理者	有効	2016/03/10	削除
管理栄養士 一般-有効2	管理栄養士	一般	有効	2016/03/10	削除
管理栄養士 一般-有効	管理栄養士	一般	有効	2016/03/10	削除
介護支援専門員 一般-有効	介護支援専門員	一般	有効	2016/03/10	削除
介護支援専門員 一般-有効	介護支援専門員	一般	有効	2016/03/10	削除
システム管理者	管理者	管理者	有効	2016/02/26	削除
デビッド ボウイ	管理者	管理者	有効	2016/02/24	削除

Copyright©2016 kyushu-softas Inc. All Rights Reserved.

(図2) システム管理者用画面

在宅医療・介護連携システム

お知らせ情報

2016-03-04 メンテナンスのお知らせ

2016-02-26 在宅医療・介護連携システム稼働!

担当被介護者情報

吉田 淳吉 35 最終更新日: 2016/08/24

田中 一 3 最終更新日: 2016/07/21

太村 登江 最終更新日: メッセージなし

玉城 勲 最終更新日: メッセージなし

資料ダウンロード

Copyright©2016 kyushu-softas Inc. All Rights Reserved.

(図3) 利用者用画面

このインターフェースは利用者から「わかりやすい」「見やすい」という感想を頂きました。

上記システムを立ち上げ、被介護者あたりで介護担当者、ドクター、薬剤師が情報共有を行い運用が始まりました。運用によって具体的にどの程度の効果があったかは確認ができませんでしたが相応の効果は出ていると聞いています。

我々としても地域への貢献という意味を含めシステムを制作した喜びを感じることができました。

図4はシステム運用開始の連絡とシステム利用への案内が地域医師会の会報に掲載されたものの抜粋です。

地域医師会のメンバーの半数程度が参加・利用されていました。

在宅医療連携システムの汎用製品化への道

本システム運用開始後、他医師会や地域包括支援センターでの転用を考え、発案元の地域医師会担当者に相談し、他医師会、地域包括センター、施設等で利用したい所があるのであれば、製品化して販売を行い利用してもらって良いと承諾をいただきました。

当時のシステム対象被介護者の利用条件は65歳以上となり、そこから対象者を調べると図5の年齢分布となっており、対象となる被介護者は全国的に見て非常に多く、またaHMSの類似の製品も少なかったことから製品化の価値があると判断しました。

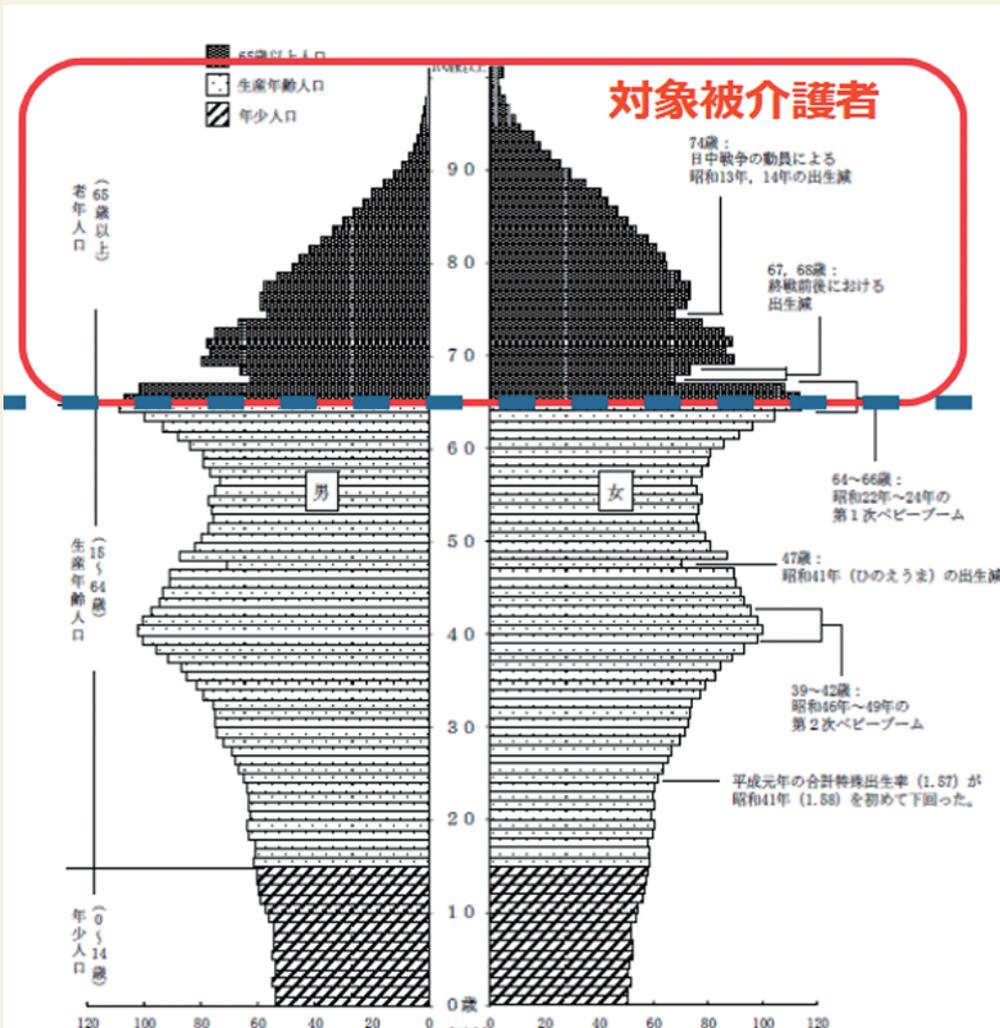
**在宅医療・介護連携システムの
実証実験について**

—— 松田 洋実

ご存知のように、宇土地区医師会では、上天草医師会や、多職種医療、介護関係者の協力のもとに在宅連携拠点事業の一環として、県の補助金を利用して宇土市・宇城市の一部・上天草市における在宅医療・介護ネットワークを構築するためのシステムを開発いたしました。昨年度末で一志の完成を見たのですが、運営を担う予定であった行政側では、介護保険法の地域支援事業における包括的支援事業ではネットワークの管理・運営経費が出せないとのことで、今年度からの実施は由に浮いた形となっております。ところが、4月の熊本地震の発生により、情報共有ツールとしてこのシステムが利用できるのではないかということになり、とりあえず動かしたところ、かなり使えるものであることが明らかとなりました。こちらは、現在も稼働しておりますが、

本編の連携システムとしても何とか存続していきたいと思っております。このシステムの実証実験を、すでに8月から来年3月までの予定で開始しております。当面、システムの保守管理費用は無料でございます。当然、システムのための人件費を当医師会で負担して参加者を募っております。実証実験終了ののちは、何とか行政側の支援を得て継続運用したいと考えており、そのためには評価可能な成果を出す必要があります。ただ、なにしろゼロからの立ち上げですので、参加症例数がいかに少なく、行政側に実績を示すだけの結果を示せるかおぼつかない状況です。システムそのものは、特に難しいものではなく、どなたでも利用できるよう、数値を低く作っておりますので、在宅医療を実施しておられる先生方のご参加を心よりお待ちしております。参加方法、システムの使用方法につきましては、医師会に申し出ていただければ、少人数、あるいは個別でも検討したいと思っております。パソコン、タブレット、スマホいずれからのアクセスも可能で、テキストだけではなく画像、動画まで使用できるようにしております。きつとお役にたてると思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

(図4) 運用コンセプトイメージ



(図5) 人口ピラミッド 出典：厚生労働省HP

当時の図5の国内人口ピラミッドを見ると、対象となる被介護者数は当面増加傾向にあり、熊本県においても被介護者は約12万人であり、県内への販売対象としても裾野が広く望めることから製品化を行うことにしました。

サーバー構築からユーザーインターフェースの見直しや機能の整理を行い、スマートフォン、タブレットでの使い勝手を向上させたものを目標としました。

図6は製品化初期版のaHMSですが、掲載項目は地域医師会で検討されたものを引継ぎ、運用面での改善を行ったものとなりました。

営業としてはパンフレットの配布と、ホームページによる広告・公開をメインで行いましたが、当時はチーム内マンパワーも十分ではなく、aHMS開発で協力していただいた地域医師会等のつながりの協力を依頼しなかったことを後悔しています。。。

販売先は医師会、地域包括センターをターゲットに営業活動を行いました。が、残念ながら医師会等は非営利団体であることから費用に関する壁が高く商談としては非常に厳しい状況が続きました。



(図6) 汎用、製品化後の初期版aHMSとなったシステム

熊本地震への対応

2016年4月14日、4月16日熊本地震が起きました。当時の被害は大きく、多くの方が避難所での生活を余儀なくされ、避難所で生活される被災者の健康不安が大きな問題であり aHMSの利用で解決の一助とできないかとの相談を受け

ました。

aHMSは個人の在宅介護をメインに作ったものですが、転用できないかを検討しました。そこで個人ではなく避難所を個人に見立てた運用で避難所としての課題共有、関係者の連絡として運用していただく提案を行い、熊本県内5カ所の避難所の情報ツールとして活用しました。当時、災害支援で来られていたDMATチーム、自治体、地域医療関係者で共有し、食事、薬品、生活環境の改善で画像・動画の共有で対応チームの活動がスムーズに進み役に立ちました。

のちに佐賀県、静岡県から派遣されてきたDMATチーム担当者から地域医師会に、aHMSの利便性が高く、利用を検討したいとのことで問合せが来ました。しかしながら予算的な問題が壁となり最終的には利用には至りませんでした。

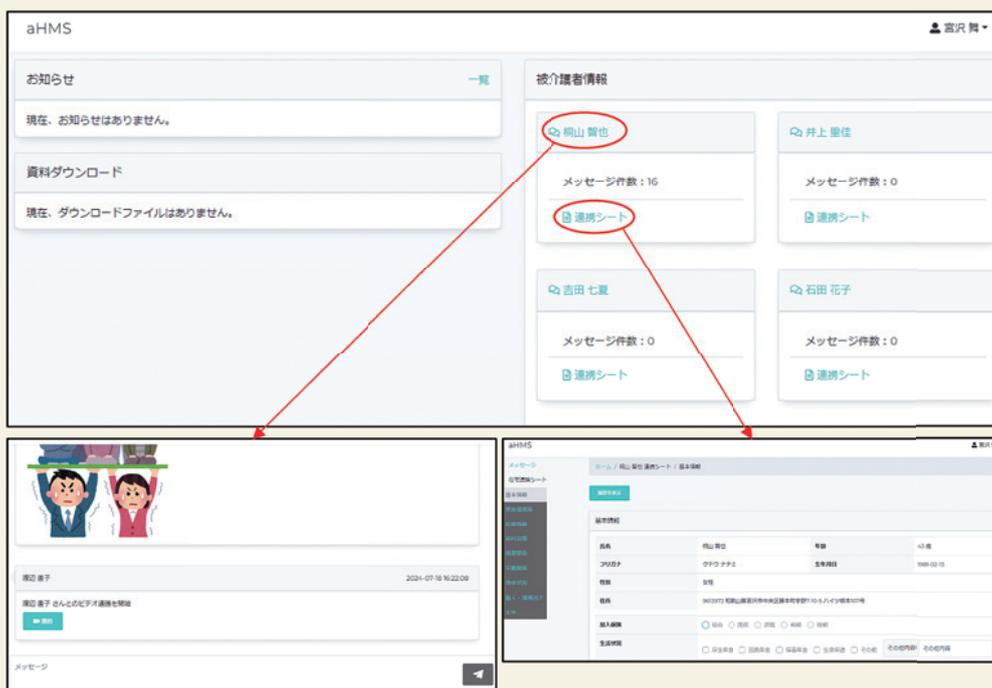


(写真2) 避難所物資配給の様子 出典：キロクマ

aHMSの現在・今後

下記は現在のバージョンアップを行ったaHMSです。aHMSは現在、ビデオ通話機能の追加を行い一歩ずつですが機能拡充が進んでいます。

図7は現在のバージョンで福岡県内の介護施設や総合病院を統括経営されている医療グループへの提供を準備中であり、利用後フィードバックをかけ機能充実と販路拡大を行っていきます。また、熊本県内の地域医師会に所属し、病院と施設を併設運用している病院への話をしているところにおいても、今後も地道な商談活動を継続していく予定です。



(図7) 現在のaHMS

編集後記



伊藤 淳平

先日(2024年8月29日)、日本と台湾で世界初の国際間IOWN APN(オールフォトニクス・ネットワーク)の開通が発表されました。この新技術により、2,893kmの距離をわずか片道約17ミリ秒で通信できる低遅延ネットワークが実現されています。今号の経営勉強会でも、「IOWN構想」について熱い議論が交わされ、私たちのビジネスに与える影響について活発な意見交換が行われました。この技術は次世代の高速・低遅延・省電力の通信環境を提供し、今後の新サービスの創出に期待されています。

9月に入り、秋の訪れを感じる季節となりました。皆さまも新たな挑戦に向けて、さらなる飛躍を目指して頑張ってください。



2024年9月1日 発行

発行人

株式会社ソフトラス

代表取締役社長 田口正則

105-0004 東京都港区新橋 2-16-1 ニュー新橋ビル 701

電話 03-3504-0311 <https://www.softas.co.jp>

株式会社九州ソフトラス

代表取締役社長 瀧澤盛夫

860-0047 熊本県熊本市西区春日 2-3-1 牧野ビル

電話 096-312-4410 <https://kyushu-softas.co.jp>

株式会社北陸ソフトラス

代表取締役社長 角丸英樹

933-0911 富山県高岡市あわら町 8-25

電話 0766-28-3711 <https://hokuriku-softas.co.jp>

株式会社ソフトラスバリューコネク

代表取締役社長 瀧澤盛夫

541-0052 大阪府大阪市中央区安土町 2-2-15

ハウザー堺筋本町駅前ビル 603号

電話 06-6786-8600 <https://softas-vc.co.jp>

ソフトラスホールディングス株式会社

代表取締役社長 田口正則

105-0004 東京都港区新橋 2-16-1 ニュー新橋ビル 701

電話 03-6807-5650 <https://softas-hd.co.jp>

編集 石井珠美/伊藤淳平/忽那有記/重川辰良/藺山恒久/富樫紗世/
橋本進二/松本真祐/宮森孝博(50音順)

執筆者 斉藤貴史(北陸ソフトラス)、山根智之(ソフトラス)、山越弘和(ソフトラス)、
長谷川朋紀(九州ソフトラス)(掲載順)

© Softas. 2024 無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。

表紙の写真



表紙の写真は、富山県・ヒスイ海岸です。北陸ソフトラス・宮森孝博さんの投稿写真です。

編集委員からのお知らせ

「sgSquare」では表紙写真を募集しています。

jpg形式のファイルにて
[ml-cafe@softas.co.jp]
宛に送付ください。

外出時にふと気になって撮った街中のワンショットや職場の飲み会写真など、カテゴリーは問いません。人物、自然、動物、街並み、ビジネス、プライベートなんでもありです。多数のご応募お待ちしております。